

寺子屋ガイド

※題字／森川芳聲

もくじ

- 2 巻頭言「元寇」の教訓……………山口 秀範
- 3 教育雑感⑫……………白濱 裕
- 4 偉人レポート……………三原 純孝
- 6 橋を架ける⑧……………占部 賢志
- 8 兼二浦邑菱町三番地……………水崎 之子
- 9 やつぱり神様が好き(第五回)……………元木 哲三
- 10 TERAKOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のこころ(13) 編集余録

碑のこころ 北海道神宮 参道鳥居横の碑

札幌市中央区宮ヶ丘

※詳しく解説は12頁に掲載しております



「元寇」の教訓

代表世話役

山口 秀範

パリ五輪——日本選手の活躍

オリンピックの熱闘が幕を閉じました。日本選手は多くの種目で期待を上回るほどの成績を残しましたが、メダル獲得如何にかかわらず世界的レベルで戦い続けるアスリートたちに心からの声援を送ります。

巷では日本の劣化、教育の不振、若者の無気力等々が指摘され続けていますが、日本人の潜在力——身体能力、向上心、忍耐力、学習能力、平常心など——を遺憾なく発揮している彼らを見れば、日本の将来は決して悲観すべきでないと思える胸をなでおろす思いもあります。

スポーツ、芸術、将棋などで十代の少年の活躍が脚光を浴びる度に、そこから学んで「如何にすれば我が子を輝かせるか」と世の親たちに目覚めてほしいと願います。すなわち、メダリストになる素質は無くとも、何かの分野で秀でる可能性を全ての子供は持っているとの気づきが子育ての出発点ではないでしょうか。その「何か」を親子で見つけることと並行して、どの分野にも共通する心の鍛錬（向上心、忍耐力、持続力に加えて素直さや協調性など）に取り組めば、どの子も必ず自分の得意分野で一流になります。志明館の志教育が目ざしているのは、正にその勘所なのです。

メダリストの発言

卓球でメダルを取った女子選手が「特攻資料館（知覧特攻平和会館）に行つて、生きていること、そして自分が卓球をできていることが、当たり前じゃないと

いうのを感じてみたいなと思つています」と語つて話題を呼んでいます。

特攻隊員への敬意を素直に表し、平和の有難さを実感したいとの思いでしょうから、大人たちがさかしらに評論するのは蛇足でしょう。そう言いながら二言つけ加えてください。平和の価値を確認した上で、この平和を守り抜くため国民は何をどう備えるべきかに心を向けてください。国を守るとはその自覚を言うのです、と。

志明館の校歌四番は、
四、国難の蒙古襲来迎へ討ち
勇を奮ひし武士の末

志明館友 未来を担はむ

です。七五〇年前の一方的な侵略を命がけではね返した鎌倉武士の勇を讃え、その勇者の末裔が君たちなんだよと、国の将来を担う国民としての自覚を促す歌詞なのです。

元寇に見る我が国外交の基本

全く一方的な侵略意思を挫いて国土を守り通した元寇は、近隣諸国の脅威が高まる現代日本に大きな教訓を遺しています。二度に亘る来襲の前哨戦は文永の役（第二回目）より八年前に届いた国書から始まります。冒頭「大蒙古国皇帝書を日本国王に奉る」と、皇帝と国王を使い分けるのは古代以来中華思想の発現で、我が国に朝貢を求める定石です。

文面も「親睦」「通好」と友好を装いながら最後は「兵を用ふるに至るは、夫れ孰か好む所ならん。王其れ之を凶れ」と、武力行使をちらつかせた脅迫で終わっています。

この国書を受け取った大宰府はすぐに鎌倉へ届けま

すが、幕府は朝廷に判断をゆだね、後深草上皇の御所で連日行われた評定の結果「返書を送らない」方針に決します。「返事をしない」とは消極的な決定のように見えますが、国交のない国に返書を出すこと自体が相手に阿る行為に当たります。大宰府で数ヶ月待った高麗の使者（すでに日本と国交を持っていた高麗は、蒙古から威圧的に仲介を求められていた）は空しく帰路に就いたのです。

その後数度、人を代えて使者を送り続けますが、日本側の態度は一貫していました。その一方で鎌倉幕府は九州の御家人たちに蒙古襲来に備えて警戒態勢に入るよう指示し、朝廷では諸寺社に異国降伏の祈祷を命じておられます。返書を出さないことの帰結が、国家防衛の戦となる覚悟を朝廷・幕府双方が固めていたのは明らかです。

武力を背景にした脅威に屈せず対等外交を貫く——これは聖徳太子以来我が国外交の基本です。先の元寇の例では、文永の役後に博多湾沿いに防塁を築くとともに、高麗に向けた進攻を準備していたのです。これなどは「専守防衛」から踏み出して「敵基地攻撃能力」保有を明記した「昨年の「国家安全保障戦略」の手法にもなる史実です。

毎年八月になると繰り返される「平和の尊さ」主張に、その平和を維持するための「国の護り」議論が加わることを切望します。長い歴史を紡いできた日本を守り続ける営みを次代にしっかりと伝えねばなりません。

（追伸）アンケートを同封していますのでご協力ください。「応援団」ご加入も歓迎します。